

# 太陽光発電オーナーの参加の場



ようこそ 東工大testK1003 さん ログアウト

## 太陽光発電自己診断支援システム

最初のパネル構成設定

現在の発電量の推定値を知りたい

発電電力量の推定値を知りたい

発電電力量の記録を付けたい

システムの利用方法

現在の発電量の推定値を知りたい

みなさんの太陽光発電システムの「今の日射状態なら、このくらい発電できるはずですよ」という数値を計算します。この数値と実際の発電量を比べてみましょう。

**現在の発電量の推定値 0.0 kW**  
北側の太陽電池容量は0.0kWです。

西側の太陽電池容量は0.0kWです。

東側の太陽電池容量は10.0kWです。

南側の太陽電池容量は10.0kWです。

推定値と実際の発電量の差が大きい時は発電電力量も比べてみましょう。

屋根の上の数値は方位ごとに計算した発電量です。

---

推定値と実際の発電量とを比べて気がついたことや数値を記録してください。

### 発電量日記

追加

2011-06-21 11:19:54 : \*\*\*お知らせ\*\*\* 2011年5月17日～5月23日まで日射計測が停止していました。この期間を含む診断は100%以上になる事があります。現在は復旧していますので引き続きのご利用をお願いいたします。

2010-02-19 01:30:51 : 今日はお天気のせいか発電量が少なかったです

2010-01-29 01:14:56 : 脳内PVを設置

---

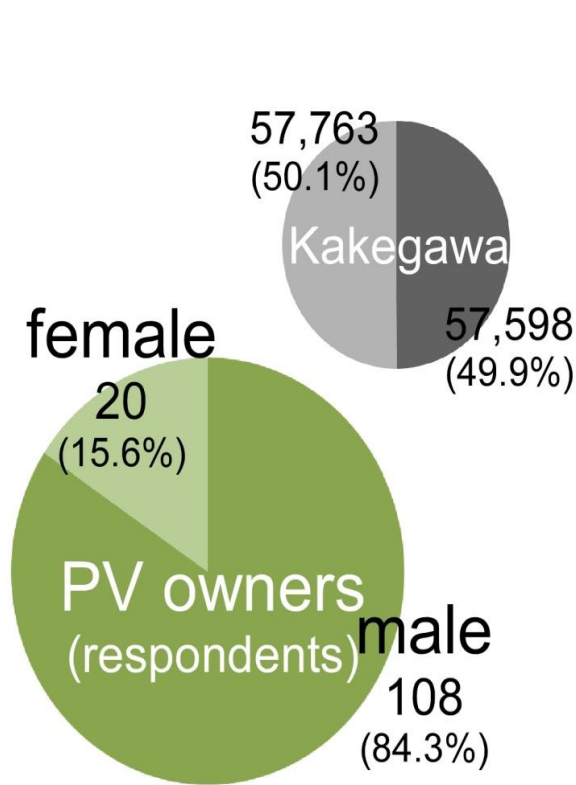
**現在の計測値** ※ 2011/08/29 21:57:51 ~ 2011/08/29 22:05:54

計測地点名 掛川市役所1  
 水平面日射量 -0.010 kW/m<sup>2</sup>  
 気温 26.8 °C

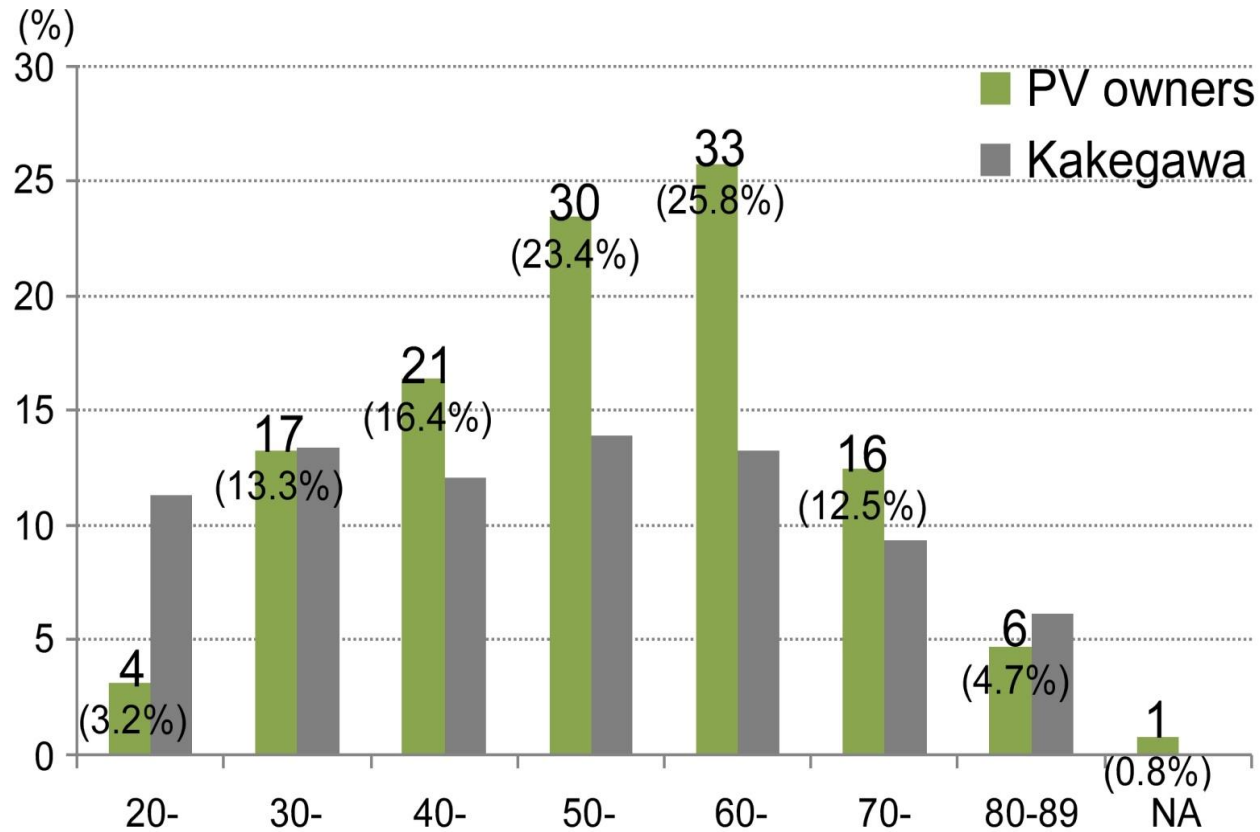
C

# 回答者の基本属性

## 掛川市グリーン電力証書モデル事業参加世帯



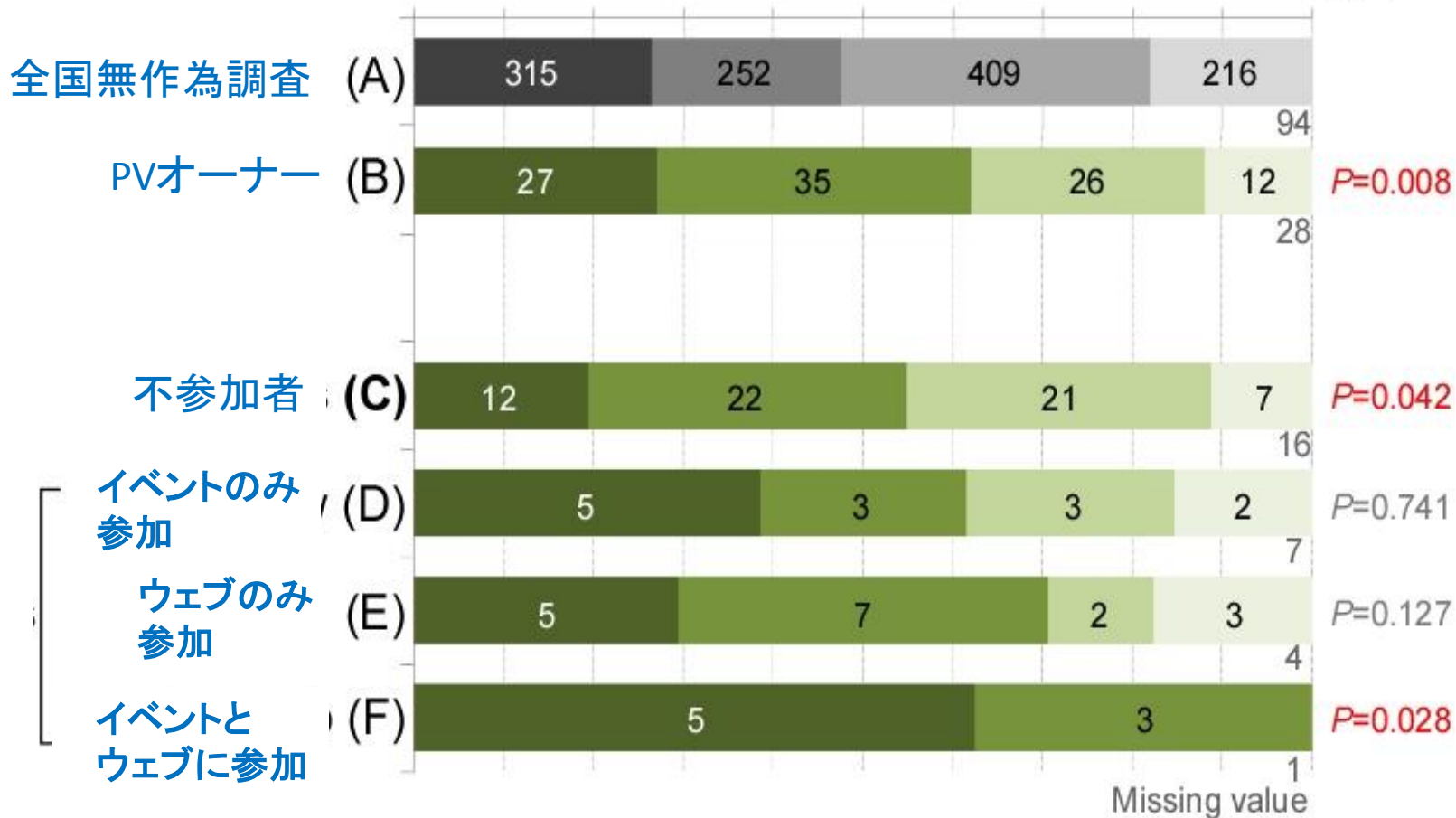
(A) Sex



(B) Age

全方位型
  科学好き型
  生活重視型
  低関心型

0 20 40 60 80 100 (%)



# リテラシー把握と地域の問題

- 太陽光発電のオーナーは日本人一般よりも科学好きな傾向がある
- 全方位型は他のタイプより太陽光発電関係のイベントに参加する傾向がある
- 太陽光発電の普及が進めばより多くのリテラシータイプの人に普及するだろう
- 科学好きは早い時期に太陽光発電を導入していることが別の調査で判明している



# 電動アシスト自転車と 太陽光発電の利用による おでかけ型介護予防の町づくり

- 種類： 科学研究費補助金基盤研究(B)
- 規模： 平成23～26年度15,200千円
- 代表： 西條美紀(東京工業大学)

# 役割分担

- 東工大西條研：調査実施・成果の共有・発表
- 掛川市：各部局との調整・市の資料の提供
- ヤマハ発動機（株）：  
3輪アシスト自転車の貸し出しとアドバイス
- ヤマハモーターエンジニアリング（株）：  
らいふ・ウォーカーの貸出とアドバイス

# 研究デザイン



ヒアリングと質問紙による高齢者の実態把握



「寝たきり」の期間を短く

目的  
Goal

計画  
plan

お出かけ型  
介護予防の  
開発

考察  
Observation

実践  
Implementation

「お出かけ型介護  
予防」評価—改良



高齢者用移動ツールと  
その社会技術を  
企業・自治体と・実装





# 電動アシスト自転車

2輪



PASコンパクト  
\* 専門職試乗会で使用



PAS CITY-C  
\* 高齢者試乗会で使用

3輪



PASワゴン  
\* ハンドル固定式・スイング式の2種

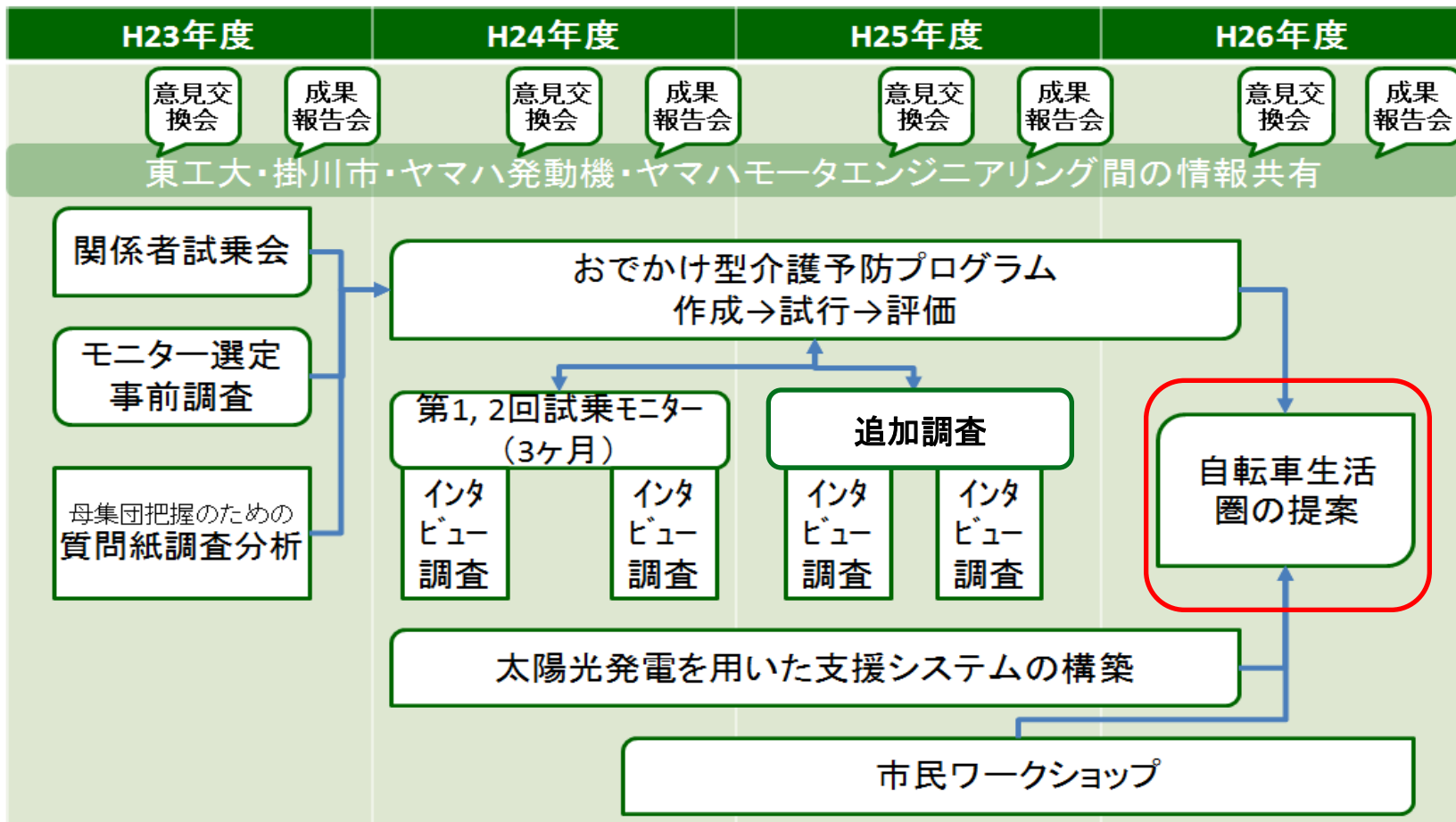
4輪



らいふ・ウォーカー



# 年度計画(23~26年度)



# 地域が本当に困っていることに対する アプローチ

- 信頼関係がないと問題にすら近づけない
- 「困っていることは何ですか」、「地域のリスク」は何ですかのような調査には意味がない
- 地域の困りごとへのアプローチには3つの力が必要
  - 行政の力：問題把握＋対策
  - 大学の力：問題と対策の橋渡し：形式知化
  - 市民の力：形式知を実行力に

# お出かけ型介護予防

## 課題

健常でない高齢者の移動は困難で家族にも負担

## 対策

### 市役所

地域健康医療支援センターを市内5か所につくり、  
介護予防も推進

## ブリッジ

### 東工大

高齢者がお出かけできるしくみづくりを  
センターを拠点に作り虚弱化に備える

# 調査概要



	掛川市 高齢者一般調査	モニター調査	
		2輪	4輪
分析	高齢者の移動手段と健康状態等の関係	電動アシスト自転車の利用実態	
日程	2010年12月24日～ 2011年1月10日	第1期: 2012年6月20日～8月10日 第2期: 2012年10月9日～12月1日	2012年11月5日～2013年1月30日
対象	65歳以上2000名(要支援・介護認定を受けていない方)を無作為抽出。 1379票(69.0%)回収	各期対象地区在住高齢者7名(64歳～86歳)	リハビリ病院でリハビリをしている方71名
場所	掛川市全域	掛川市桜木地区・葛ヶ丘地域	デイサービスセンター(さやの家) リハビリ病院(掛川北病院)
データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>全68/69問(健康チェックリストや自転車利用項目を含む)</li> <li>非連結方式で分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニター実施前に質問紙調査とヒアリングを実施</li> <li>自転車にGPSロガーを設置。実施後にもヒアリングを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニター実施前に事業者にはアヒアリングを実施</li> <li>各事業者が質問紙調査を実施</li> <li>実施後にも事業者にはアヒアリングを実施</li> </ul>

# リスクコミュニケーションについての 考え方

- リスク把握は対策、あるいは対策見通しとセットであるべき
- ゴールのない公共的なコミュニケーションは混乱にしかつながらない
- ゴール(リスクの把握に基づく対策)の設定は行政＋大学＋市民の三者が問題＋対策＋ブリッジの三つ組みで課題を解決する中から生まれる



# リテラシーとリスクコミュニケーション

- 無理につなげて考えるべきではない
- リテラシータイプと地域における役割は別のもの
- リテラシー構造に違いがあることを踏まえて多様な人々による協働のためには、**コミュニケーションデザイン**が必要
- コミュニケーションデザインについては、拙著「**コミュニケーションデザイン**」(くろしお出版より今秋発刊)を参照されたい。